

# JAPAN WEEK

第38回  
ジャパンウィーク® 2013  
ポーランド・ポズナン

TM



[開催期間] 2013年10月19日(土)~10月24日(木)

[開催地] ポーランド共和国・ポズナン市

The 38th Japan Week Poland Poznań 2013

Period of The Event Oct.19 (Sat) –Oct.24 (Thu), 2013, 6days

POZnań\*

\* Eastern energy, Western style





## ご挨拶

ポーランドはドイツと国境を接し、西欧との窓口になっています。特にポズナン市はワルシャワとベルリンの丁度中間に位置し、昔から貿易の中継地点として栄えてきました。ドイツの自動車産業の部品供給地として自動車関連の工場が多く進出し経済も安定しています。近年では、国際見本市や国際スポーツ競技も積極的に誘致しています。2013年10月19日から10月24日までの6日間にわたり「第38回ジャパンウィーク®2013年ポーランド・ポズナン」が開催されました。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より52団体861名におよ

ぶの方々が参加しました。また、ポーランド側からも11団体93名ものご参加をいただき、現地参加型の「双方向の交流」（日本側の参加者だけでなく、ポーランド側からも参加いただき「交流」する）を大きなテーマとして、両国民同士の絆を深めました。オープニングフェスティバル、舞台公演、展示・実演、そしてさまざまな訪問交流プログラムが6日間にわたり行われ、ポズナン市民はじめポーランド国民が多数来場し大盛況になりました。第38回ジャパンウィーク®2013年ポーランド・ポズナンは感動・かけがえのない体験・草の根交流の6日間となりました。

## イベント概要

- 開催地** ポーランド共和国・ポズナン市
- 開催期間** 2013年10月19日（土）～10月24日（木） 6日間
- 開催規模** 日本側参加者861人 ポーランド側参加者93人・見学者約21,600人
- 主催** 公益財団法人国際親善協会、ポーランド共和国ポズナン市
- 後援** 在ポーランド日本国大使館、国土交通省、文部科学省、日本政府観光局（JNTO）、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構（ジェトロ）、財団法人自治体国際化協会、財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会
- 助成** 公益財団法人双日国際交流財団
- 協賛** 日本航空株式会社、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほ銀行、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行
- 目的** 「ジャパンウィーク®」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、相互理解・友好親善を図る市民レベルの国際文化交流事業です。この「ジャパンウィーク®」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されていますが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴があります。

参加団体一覧

埼玉県	長沼静きもの学院 熊谷校/着物着付け 剣伎衆かむむ featuring 小林未都/殺陣パフォーマンス・ピアノ	三重県	手織り佐賀錦/織物 日本画彩潮会/日本画
東京都	きものレディ着付学院/着物ショー 早稲田ちんどん研究会 風街宣伝社/ちんどん 株式会社 アートクロス/美術品展示 玉井 京子/現代アート 和紙ちぎり絵 鈴美会/和紙ちぎり絵 吉岡 麗芳/華道 赤坂なでしこ会/人形 B-Bridge /ポップカルチャー展示 表千家花乃会教室/茶道 世田谷区弓友会/弓道 ブランドゥ・ジャパン海外セミナー/見学	京都府	花椿/茶道
神奈川県	SHUHALLY /茶道	大阪府	八尾音/合唱 LuLu Bellydance Team [Marjana] /ベリーダンス 西日本友好親善訪問団/交流
富山県	瀬尾学園 総合カレッジ SEO <料理>/料理	兵庫県	川口塘紅書道グループ/書道
長野県	和太鼓 TOKARA /和太鼓	奈良県	花柳アカデミー/日本舞踊
岐阜県	ジャスタ名古屋 (日本弦楽指導者協会中部支部) /弦楽演奏	香川県	藤登会/日本舞踊
静岡県	湖西市民合唱団/合唱 浜松・花蝶ちん/ちんどん 煎茶道静風流/茶道	愛媛県	TORANOKO Performing Arts Company /パフォーマンスアーツ
愛知県	太鼓衆 翔鼓/和太鼓 金城学院大学書道部/書道パフォーマンス 愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ/吹奏楽 司源流/華道 NPO 法人 CAN 缶アート G /アルミ缶アート 豊田市剣道連盟/剣道	福岡県	藤城 道博/コンテンポラリーダンス 九州茶道文化交流協会/茶道
		鹿児島県	劇団「夢飛行プロジェクト」/舞踊劇
		沖縄県	八重山古典音楽研究会/三線・八重山民謡
		その他	見学 12 団体
		ポーランド	Sakuramai Poland 桜舞ポーランド/よさこい Maya Alexandra Kasprzak /バイオリン Poznańskie Stowarzyszenie Aikido Renshin /合気道 Klub Sportowy Akademia Judo Poznań /柔道 Klub Karate Tradycyjnego ORZEŁ Poznań /空手 Poznański Klub Okinawa Shorinryu Kyudokan Karate /空手・古武道 Stowarzyszenie - Centrum Tradycyjnych Sztuk Japonskich TENGUKAI /剣道 Polskie Stowarzyszenie Kyudo / Polish Kyudo Association /弓道 在ポーランド日本国大使館、日本政府観光局 (JNTO) /日本紹介 TUI Centrum Podróży /日本紹介

合計 63 団体 954 名 (うちポーランド側 11 団体 93 名)

実行委員会

日本側	
実行委員長	愛知 和男 元衆議院議員/公益財団法人国際親善協会 会長
名誉顧問	山中 誠 在ポーランド日本国大使館 特命全権大使
理事	木村 陽子 財団法人自治体国際化協会 理事長/公益財団法人国際親善協会 評議員
理事	今村 忠雄 社団法人日本海外協会 会長/公益財団法人国際親善協会 評議員
理事	真鍋 精志 西日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長兼執行役員
理事	二宮 雅也 日本興亜損害保険株式会社 取締役社長/公益財団法人国際親善協会 理事
理事	武井 真剛 日本航空株式会社 本店国際販売部部長/公益財団法人国際親善協会 理事
理事	丸尾 和明 株式会社日本旅行 代表取締役社長/公益財団法人国際親善協会 理事
事務局長	坂牛 研一 公益財団法人国際親善協会 常務理事

(順不同)

ポーランド側	
実行委員長	Ryszard Grobelny (リシャルド・グロベルヌイ) ポズナン市長
理事	Dariusz Jaworski (ダリウシュ・ヤヴォルスキ) ポズナン市副市長
理事	Robert Kaźmierczak (ロベルト・カジミエルチャク) ポズナン市文化局長
理事	Anna Hryniewiecka (アンナ・フリニエヴィエツカ) ポズナン文化センター館長



## 1. ジャパンウィーク® 運営組織について

当事業は日本・ポーランド両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男 公益財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、ポーランド側はリシャルド・グロベルヌイ ポズナン市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知PR活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をポズナン市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部にご用意頂いた。

日本より都合5回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。

日本側では2012年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

## 2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、ポズナン市、そしてコーディネーターにご協力いただいたおかげで期待通りの観客数であった。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

### 1. メディアでのプロモーション

ラジオ、新聞、ウェブサイト、を中心としたPR展開を実施していただいた。

#### ① ラジオ

「Radio Zet」「Chill Zet」の2つのラジオ局が10月初旬からジャパンウィーク®が始まる1週間前までの期間、1回につき30秒のプロモーションを前社は計24回、後社は計50回オンエアしていただいた。

#### ② 新聞

ジャパンウィーク®が始まる約1週間前にポーランド全国紙「Polityka」に1回、ポズナン地方紙「Geos Wielkopolski」には同時期よりジャパンウィーク®が始まるまでに3回、作成されたジャパンウィーク®ロゴを中心にプロモーション記事を掲載していただいた。また、開催期間中には、ポーランド全国紙「GAZETA PL」のポズナン地方版にジャパンウィーク®紹介の記事を掲載していただいた。

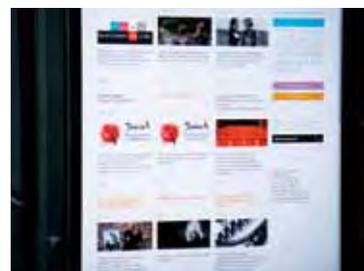
#### ③ 雑誌

ジャパンウィーク®開催前の10月初旬に、雑誌「POLITYKA」と「Voyage」にてジャパンウィーク®紹介記事を掲載いただいた。

### 2. PRツール作成およびその配布

下記が9月末よりポズナン市内に配布された。

- ① 街中での告知用巨大ポスター 5枚
- ② 街中での告知用大ポスター (OHH Billboards) 20枚
- ③ 街中での告知用ポスター 240枚
- ④ 告知用フライヤー 2,000枚



### 3. 各イベントプログラム

ジャパンウィーク®の大きなテーマは「双方向の交流」である。日本側のみの参加だけでなく舞台公演、展示・実演についてポーランド側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは10月19日(土)の14:00よりインペリアルキャッスルの中庭特設ステージにてオープニングフェスティバルが開催されジャパンウィーク®の幕があけた。その後、インペリアルキャッスルシアターと隣のホールでのオープニングレセプション、同劇場での舞台公演と続いた。舞台公演は21日(月)まで同劇場にて毎日開催され、22日(火)からはオペラ座に場所を移して24日(金)まで開催された。展示・実演は20日(日)のリボンカッティングセレモニーに始まり、24日(木)まで実施された。交流プログラムの学校訪問については9団体、生涯学習施設訪問については5団体が参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本友好親善訪問団は、交流会イベントおよびボズナンナイトにて大いに親善交流の輪を広げて貰った。

### 4. 在ポーランド日本国大使館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィーク®が大盛況に終わることができたのは一重に公式プログラムにご臨席をいただいた在ポーランド日本国大使館の松本臨時代理大使をはじめ大使館の皆様のご協力による賜物である。また、今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ボランティアについては、アダム・ミツケヴィッチ大学日本語学科の生徒を中心に、日本を学ぶ学生の皆様にご協力いただいた。ジャパンウィーク®スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていたいただいた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィーク®の成功はありえなかったと言っても過言ではない。

### 5. スタッフおよびご協力いただいた方々

ボズナンでのジャパンウィーク®開催が決定してからイベントが終了するまで、下記の方々は、実務上のきめこまやかな打ち合わせと準備で大変ご協力いただき、今回のジャパンウィーク®を成功へと導いた。

#### コーディネーター

塚崎 巖

#### ボズナン市

Mr. Filip Gruszczyński (ボズナン市広報室)

#### インペリアルキャッスル (Centrum Kultury Zamek)

Ms. Anna Hryniewiecka (インペリアルキャッスル館長)

Ms. Zofia Starikiewicz (インペリアルキャッスル副館長)

Mr. Jakub Walczyk (インペリアルキャッスルアシスタント)

#### オペラ座

Dr. Robert Szczepański, PhD (オペラ座副館長)

#### コーディネーターアシスタント、MC & 通訳

Ms. Jagna Nieuwazny

#### 音楽中学および高校

Poznańska Ogólnokształcąca  
Szkoła Muzyczna II stopnia im.  
M. Karłowicza w Poznaniu

Mr. Leszek Walkowiak (校長)





# オープニングフェスティバル

**日 時** 2013年10月19日 (土) 14:00~17:00

**場 所** インペリアルキャッスル内中庭 (Imperial Castle Rose Courtyard)

**観 客 数** 約1,000名 (屋外)

**日 本 側** 愛知和男 会長、松本洋 在ポーランド日本国大使館臨時代理大使、三瓶博二 日本興亜損害保険株式会社専務執行役員、武井真剛 理事、丸尾和明 理事、坂牛研一 常務理事

**ポーランド側** Dariusz Jaworski ポズナン市副市長、Anna Hryniewiecka ポズナン文化センター館長

**参 加 者** 和太鼓TOKARA、剣伎衆かむみ、浜松・花蝶ちゃん、金城学院大学書道部、八重山古典音楽研究会、早稲田ちんどん研究会風街宣伝社、桜舞ポーランド、太鼓衆 翔鼓

天候は晴れ、非常に低い気温。ピンと張りつめた空気の中、今年のジャパンウィーク®が始まる。和太鼓TOKARAの気合いの入った演奏でスタートし、そしてセレモニーと続き、愛知会長の「開会宣言」でジャパンウィーク®の幕が切って落とされた。剣伎衆かむみのスペクタクルな剣伎ショー、早稲田ちんどん研究会の哀愁漂う演奏と続き、金城学院大学書道部の若さあふれる女子大生の書道パフォーマンスに盛大な拍手が送られていた。八重山古典音楽研究会の郷土色豊かな三線と歌、浜松・花蝶ちゃんの陽気なちんどんパフォーマンス、そして現地参加の桜舞ポーランドが統制の取れたよさこいソーランを披露した。最後は、太鼓衆 翔鼓の喜びあふれる和太鼓演奏でオープニングフェスティバルを締めくくり、観客も最後まで帰ることなく盛んに拍手を送っていた。



# オープニングレセプション

**日 時** 2013年10月19日 (土) 17:30~19:00  
**場 所** インペリアルキャッスル シアター (Imperial Castle)  
**参加団体** 27団体  
**日本側** 愛知和男 会長、松本洋 在ポーランド日本国大使館臨時代理大使、  
三瓶博二 日本興亜損害保険株式会社専務執行役員、武井真剛 理事、  
丸尾和明 理事、坂牛研一 常務理事  
**ポーランド側** Ryszard Grobelny ポズナン市長、  
Dariusz Jaworski ポズナン市副市長、  
Anna Hryniewiecka ポズナン文化センター館長

レセプションが始まる前には、バイオリンのソロ演奏家による生演奏があり、会場が厳かな雰囲気に包まれた。レセプションはリシャルド・グロベルヌイ ポズナン市長の歓迎の挨拶でスタートし、その後松本臨時代理大使、愛知会長のスピーチと続いた。日本・ポーランド双方のスピーチには参加者は聞き入っていた。スピーチ終了後には、ポズナン市長、愛知会長によるプレゼント交換が行われた。そしてポズナン市長、松本臨時代理大使、愛知会長により参加証書が各出席団体代表に手渡された。式典が終了後レセプションパーティー会場に移動し、飲み物やパーティー料理そして歓談のひとつときを楽しんだ。ジャパニウィーク®の幕開けにふさわしい華やかなプログラムであった。



## 表敬訪問

**日 時** 2013年10月22日 (火) 12:00~13:00  
**場 所** ポズナン旧市役所 (Old Town Hall)  
**参加団体** 4団体  
**ポーランド側** Ryszard Grobelny ポズナン市長、Dariusz Jaworski ポズナン市副市長、  
Anna Hryniewiecka ポズナン文化センター館長、  
Magdalena Mrugalska Banaszak ポズナン市歴史博物館マネジャー

日本側からの出席団体の皆様には旧市庁舎前に正午前に集まっていた。着物姿の参加者は、出迎えたポーランド側の民族衣装の女性と写真撮影を楽しんでいた。そして12:00に旧市庁舎の時計じかけのヤギがぶつかり合うのを見た後、ポズナン市長が旧市庁舎の正面玄関にて参加団体の皆様を出迎えていただき記念撮影をした。2階のサロンにて表敬訪問の式典がスタートした。まず、ポズナン市長より歓迎のお言葉をいただき、続いてポズナン市歴史博物館マネジャーより、この旧市庁舎の歴史を説明いただいた。そして参加団体の各代表より自己紹介をした後、ポズナン市より本のプレゼントが民族衣装の女性より配られた。式典が終わり、その後の歓迎の飲み物とお食事を出席者は楽しんでいた。



# 舞台公演

前半の10月19日(土)~21日(月)はインペリアルキャッスルシアター (Imperial Castle)、後半の10月22日(火)~24日(木)はオペラ座(Teatr Wielki w Poznań)で行われた。「舞台公演」のチケット予約および受け渡し業務はポズナン市が9月末からスタートしていただき、本番前に万全の準備が整った。又、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。観客の反応も大喝采の拍手の連続、ときにはスタンディングオベーションもあり、公演は大成功のうち幕を下ろした。観客は十分に楽しみ大満足だったと感じた。ポズナン市民の皆様に感謝の気持ちでいっぱいである。



場所 インペリアルキャッスルシアター (Imperial Castle)



## インペリアルキャッスルシアター (Imperial Castle)

日時 10月19日(土) 19:00~21:15

観客数 約350名

参加者 八重山古典音楽研究会  
藤登会  
金城学院大学書道部  
桜舞ポーランド  
和太鼓TOKARA

劇場公演の初日はほぼ満席。八重山古典音楽研究会の琉球音楽で幕を開けた。独特の旋律が心地よく、観客はじっと聞き入っていた。続いて藤登会の日本舞踊は粋でキレのある所作に大きな拍手が沸き起こっていた。休憩を挟んで、金城学院大学書道部のはつらつとした書道パフォーマンスは、墨が乾くまでの間に観客からの質問に答えて好評であった。現地参加の桜舞ポーランドのよさこいソーランは、揃った動きが素晴らしく見事であった。最後は和太鼓TOKARAの隙のない力強い和太鼓演奏で幕を降ろした。質の高い出演者に観客も大満足し、初日が無事終了した。

日時 10月20日(日) 19:00~22:15

観客数 約350名

参加者 長沼静きもの学院熊谷校  
浜松・花蝶ちゃん  
LuLu Bellydance Team [Marjana]  
金城学院大学書道部  
きものレディ着付学院  
花柳アカデミー  
太鼓衆 翔鼓

劇場公演2日目もほぼ満席。最初は、長沼静きもの学院熊谷校の現地のお嬢さんをモデルに起用しての着物ショー。十二単を中心に美しい着付を披露した。続いて浜松・花蝶ちゃんの楽しいちんどんパフォーマンスでは、観客も一緒に踊る場面もあり大いに盛り上がった。LuLu Bellydance Team [Marjana] のみなさんの妖艶なベリーダンスは、観客の目をくぎ付けにしていた。金城学院大学書道部の元気な書道パフォーマンスは、力強い書道に大きな拍手が起きていた。後半は、きものレディ着付学院の着物着付舞い、リズムカルな曲に乗って舞いながらテンポよく着物を着上げてゆく様は見事であった。続いて花柳アカデミーが艶やかな日本舞踊を披露した。最後に太鼓衆 翔鼓の和太鼓演奏は、大人数で打つ太鼓の響きに客席からは大きな拍手が沸き、2日目の幕が降りる。途中で帰る客も少なく、最後まで楽しんで出て来た人々の表情は満足感にあふれていた。

日時 10月21日(月) 19:00~21:20

観客数 約350名

参加者 花柳アカデミー  
現地武道団体  
早稲田ちんどん研究会風街宣伝社  
和太鼓TOKARA

今日もほぼ満席の状態。前半は、花柳アカデミーの華やかな着物での日本舞踊で幕を開ける。現地参加の武道グループは剣道・柔道・合気道・空手の形を見応えある形で披露していただいた。休憩を挟んで後半は、早稲田ちんどん研究会風街宣伝社のなつかしい哀愁を感じさせるちんどんパフォーマンス。最後の和太鼓TOKARAは躍動感溢れエネルギー感あふれる和太鼓演奏で、アンコールに応えスタンディングオベーションの拍手の中で幕が降りた。



場 所 オペラ座 (Teatr Wielki w Poznań)

## オペラ座 (Teatr Wielki w Poznań)

日 時 10月22日 (火) 19:00~21:10

観 客 数 約1,000名

参 加 者 ジャスタ名古屋 (日本弦楽指導者協会中部支部)  
劇団「夢飛行プロジェクト」  
湖西市民合唱団  
和太鼓TOKARA+藤城道博(コラボレーション)  
和太鼓TOKARA

オペラ座に舞台を移しての公演はほぼ満席の状態。ジャスタ名古屋 (日本弦楽指導者協会中部支部) の弦楽アンサンブルの演奏で幕を開けた。そのやわらかな調和のとれた演奏に観客もうっとりしていた。続いて劇団「夢飛行プロジェクト」の日本の芸能文化を凝縮して紹介するパフォーマンスは、めまぐるしく変わるシーン展開に盛んに拍手が送られていた。後半は湖西市民合唱団で始まり、その女声合唱のすばらしいハーモニーは客席を魅了していた。続いて藤城道博と和太鼓TOKARAのコラボレーション。和太鼓のライブ演奏でコンテンポラリーダンスが披露され、鍛え抜かれたパフォーマンスは圧巻であった。そして最後の和太鼓TOKARAによる和太鼓演奏では、今夜もアンコールに応え、鳴り止まぬ拍手の中で幕が降りた。充実した演目内容に観客の満足度も最高潮に達し、オペラ座の初日も無事終了した。

日 時 10月23日 (水) 19:00~22:00

観 客 数 約1,000名

参 加 者 愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ  
八尾音  
Maya Alexandra Kasprzak  
藤城道博  
剣伎衆かむみ featuring 小林未郁

今夜もほぼ満席の状態。最初の演目は愛知淑徳大学ウィンドオーケストラと現地高校の吹奏楽部員が加わってのコラボレーションで幕を開けた。当日の数時間のリハーサルにも関わらず本番はすばらしい息の合った演奏を聴かせてくれた。休憩を挟んで八尾音の合唱は、全員浴衣姿で叙情あふれる童謡メドレーを披露した。続いてコンテンポラリーダンサー藤城道博の独特の世界観のあるソロ・パフォーマンスが披露された。最後は剣伎衆かむみ featuring 小林未郁が登場した。観客の心を掴んでしまう小林未郁のヴォーカル、そして剣伎衆かむみのスペクタクルな剣伎ショーで幕を降ろした。

日 時 10月24日 (木) 19:00~21:30

観 客 数 約1,100名

参 加 者 TORANOKO Performing Arts Company  
剣伎衆かむみ featuring 小林未郁  
和太鼓TOKARA

舞台公演そしてジャパウィーク®最終日もほぼ満席となった。前半はTORANOKO Performing Arts Companyの子供達主役のミュージカルが披露された。熱心な演技と、字幕設備の完備で作品内容を観客にうまく伝えられた。出演者の強い思いを感じさせるパフォーマンスであった。後半は剣伎衆かむみ featuring 小林未郁の舞台で始まる。伸びのある小林未郁のヴォーカルとプロフェッショナルな剣伎衆かむみの剣伎ショーに観客は興奮した。そして最後は和太鼓TOKARAのゆるみのないパワフルな演奏に客席はスタンディングオベーションとなり、拍手と歓声の中で幕が降り観客は大満足していた。

## 和太鼓 TOKARA



## 金城学院大学書道部



## 八重山古典音楽研究会



## 太鼓衆 翔鼓



浜松・花蝶ちん



早稲田ちんどん研究会 風街宣伝社



剣伎衆かむるfeaturing 小林未郁



藤登会



## 花柳アカデミー



## きものレディ着付学院



## 長沼静きもの学院 熊谷校



## LuLu Bellydance Team [Marjana]



藤城 道博



湖西市民合唱団



ジャスタ名古屋



劇団「夢飛行プロジェクト」



八尾音



愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ



TORANOKO Performing Arts Company



コラボレーション  
藤城 道博

和太鼓 TOKARA



# 野外宣伝パフォーマンス



早稲田ちんどん研究会 風街宣伝社は10月18日と19日、浜松・花蝶ちんは10月19日と20日、ポズナン市内をちんどん演奏しながら練り歩き、ボランティアスタッフとともにジャパンウィーク®PRのステッカーを配り、イベントを大変盛り上げていただいた。



## 特別公演 剣伎衆かむる featuring 小林未郁

日 時 2013年10月20日 (日) 17:00~17:20、18:00~18:20

場 所 M1 ショッピングセンター (M1 Centrum Handlowe Poznań) 観客数 約1,000名 (500名×2回)

日曜日の夕方家族連れやカップルで賑わうポズナン市郊外にある総合ショッピングセンターM1にて、剣伎衆かむるfeaturing小林未郁のパフォーマンスが2回行われた。場所は正面入口を入ったスペースで、2回の公演はともに市民の皆様でいっぱいとなった。パフォーマンスが始まると剣伎衆かむるの華麗な剣伎に見とれ、大きな拍手が巻き起こった。途中、観客の中から選ばれた人がサムライの主人公になり刀を使って活躍する場面もあり、夕方のショッピングセンターの喧騒の中で、観客は大変喜んでいた。



日 時 2013年10月22日 (火) 19:00~20:00 場 所 ブルーノート (Blue Note Poznań Jazz Club) 観客数 約120名

観客が満員になったところで小林 未郁のピアノの弾き語りから始まった。その透き通る歌声を観客は聴き入った。その後剣伎衆かむるの狭いながらもステージをフルに使っての躍動感あふれるパフォーマンスは観客を魅了した。小林 未郁のピアノと歌に合わせてのストーリーある演出もあり、とてもバラエティー豊かなパフォーマンスであった。途中、観客側からも舞台上に上がっていただき、サ

ムライの主人公になっていただく場面もあり、観客は大いに盛り上がった。アンコールに答えて、小林 未郁の美しい歌声のパフォーマンスで終了した。観客の中にはその後もBlue Note内に残り、剣伎衆かむるや小林未郁を取り囲み、写真撮影や歓談を希望した。Blue Noteのオーナーからは、「ぜひBlue Noteを再訪してパフォーマンスしてほしい」とのお礼の言葉をいただいた。



# 武道大会

**日時** 2013年10月20日 (日) 16:00~19:00

**場所** 聖マリアマグダレナ高校体育館  
(Liceum Ogólnokształcące św. Marii Magdaleny)

**観客数** 約500名

**参加者** 世田谷区弓友会、豊田市剣道連盟、  
Poznańskie Stowarzyszenie Aikido Renshin、  
Klub Sportowy Akademia Judo Poznań、  
Klub Karate Tradycyjnego ORZEŁ Poznań、  
Poznański Klub Okinawa Shorinryu Kyudokan Karate、  
Stowarzyszenie – Centrum Tradycyjnych Sztuk Japonskich TENGUKAI、  
Polskie Stowarzyszenie Kyudo / Polish Kyudo Association



参加団体紹介とスピーチの後、日本側世田谷区弓友会とポーランド側弓道グループによる合同の「一つの射礼」が披露された。静々とした入場から始まるその厳かな形は、観るものに日本武道の持つ精神性を否が応でも感じさせた。28メートル先の的を矢が射抜くと、大きな拍手が起こっていた。続いて合気道は優雅に流れるような技の数々に惜しめない拍手が送られた。そして空手は多数の子供達の可愛らしい形の披露から始まり、組み手対決が実践された。古武道（沖縄空手）は厚い板を割ったり、野球のバットを肘で折ったりの鬼気迫る荒技に観客は魅了された。

柔道は受け身を中心に多彩な技を披露した。最後の剣道では豊田市剣道連盟とポーランド側剣道グループの形披露と続いた後、実際に日本・ポーランドの試合対決(3試合)が行われ大きな拍手が送られた。これで武道大会は終了となったが、豊田市剣道連盟とポーランド側剣道グループの合同稽古会が自然発生的に始まり交流を深めていた。



## 世田谷区弓友会



## 豊田市剣道連盟



# 展示・実演

日時 2013年10月20日(日)～24日(木)

場所 インペリアルキャッスル(Imperial Castle)

ポズナン市中心に位置し、歴史文化財にも指定されているインペリアルキャッスル内の展示会場で開催された。会場では日本からの参加者による実演も行われ、大変多くの来場者で賑わった。又、前半の舞台公演も同じ建物内で行われたことから、公演の参加者も展示会場に来場し、出展者と交流していた。



# リボンカッティングセレモニー

日時 2013年10月20日(日) 10:30～11:00

場所 インペリアルキャッスル (Imperial Castle)

観客数 約200名

日本側 愛知和男 会長、松本洋 在ポーランド日本国大使館臨時代理大使、  
武井真剛 理事、丸尾和明 理事、坂牛研一 常務理事

ポーランド側 Dariusz Jaworski ポズナン市副市長、  
Anna Hryniewiecka ポズナン文化センター館長、  
Zofia Starikiewicz ポズナン文化センター副館長

インペリアルキャッスルシアター前のロビーにてセレモニーは行われた。最初にDariusz Jaworski ポズナン市副市長、次に松本臨時代理大使、そして最後に愛知会長よりスピーチが行われた。その後展示・実演に参加する各団体名が読み上げられ、各団体代表者を中央にお呼びして、それぞれご紹介した。リボンカット終了後ポズナン市民に会場はオープンし、あふれんばかりの人で会場は埋め尽くされた。



## 茶道実演 10月20日 (日)

### 煎茶道静風流

午後から8回のお点前を実演していただき、毎回とも立ち見を伴う満席となった。煎茶について紅茶や中国茶を例に出し、より身近に感じてもらえるようわかりやすく解説していただいた。お点前後は質問も多数寄せられ、お茶だけにとどまらず、掛け軸や着物などについても回答いただいた。



## 茶道実演 10月21日 (月)

### SHUHALLY

午前午後を通して3回のお点前を実演していただき、毎回とも立ち見を伴う満席となった。伝統的な茶道文化の中にも、掛け軸や茶器などにモダンなデザインを融合したスタイルは、来場者にとっても好評であった。お点前後に希望者には実際にお茶をたてる体験をしていただいた。

## 茶道実演 10月22日 (火)

### 表千家花乃会教室

午後から8回のお点前を実演していただき、毎回とも立ち見を伴う満席となった。お点前だけでなく、大変艶やかな着物が好評で、実演後も途切れることがないくらいに写真の要望に答えていた。また特別に現地会場関係者にもお点前を披露していただいた。



## 茶道実演 10月23日 (水)

### 九州茶道文化交流協会

午後から3回のお点前を実演していただき、毎回とも立ち見を伴う満席となった。掛け軸に書かれている茶道の精神をあらわす「和敬清寂」の解説を中心に、調和やおもてなしの心を伝えていただいた。ボランティアスタッフにも実際にお茶をたてる体験をさせていただいた。

## 茶道実演 10月24日 (木)

### 花椿

午後から6回のお点前を実演していただき、毎回とも立ち見を伴う満席となった。1回の実演でより多くの来場者にお茶を体験していただくため、精力的に準備していただいた。予定外であった小学生グループの訪問や立ち見の方にもお茶を振舞っていただき、来場者には大変喜んでいただいた。

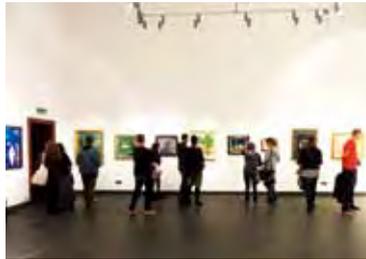


## 株式会社アートクロス

日時 2013年10月20日 (日) ~25日 (金)

場所 インベリアルキャッスル (Imperial Castle)

インベリアルキャッスルにて特別展示として「Japan Art Festival in Poznań 2013」を開催した。51点の日本美術の作品は5部門に分かれて展示された。家族連れも含めて、大変多くの市民の方々にご来場いただき、展示された多種多様の美術品を楽しんでいただいた。



## 玉井 京子

和紙や金属など様々な素材を使って作り上げられた壁掛け作品4点、円柱の床置き作品8点を展覧された。ボランティア通訳を介して、来場者と作品の前で素材についてや芸術に関する質問に丁寧にお答えいただいた。



## 手織り佐賀錦

手織り佐賀錦のバック作品4点とアクセサリー作品を出展いただき、織り機での製作過程を披露していただいた。作品のきめ細かさに来場者は驚き、佐賀錦の端材に来場者自身がピンを付けて仕上げるブローチの実演は大変人気であった。



## 川口塘紅書道グループ

書の掛け軸作品7点を展覧いただいた。来場者に「夢」「花」「桜」等のお手本を基に、書き方を教える書道ワークショップは大変人気で絶えず人だかりができていた。来場者は漢字や言葉への関心が高く、皆さん楽しそうに書道に取り組んでいた。



## 和紙ちぎり絵 鈴美会

日本の風景や花を和紙ちぎり絵で描いた額画6作品と、うちわや短冊を出展していただいた。短冊やうちわを使ったちぎり絵の制作過程を披露いただき、休む間もないほど来場者が訪れていた。手染め和紙で作られられた短冊などのプレゼントは非常に喜ばれていた。



## 吉岡 麗芳

百合、カーネーション等で「近景／秋の花」と題する2 作品を生けていただいた。生け花の実演も行い、多くの来場者が興味津々で見学していた。来場者は直接生け花に触れることができ、とても楽しい実演であった。



## 日本画彩潮会

日本画による額作品、短冊、色紙作品を出展いただいた。ジャパンウィーク®参加を記念した絵はがきやうちわを配布していただき、最終日前になるほどの人気であった。来場者は絵や画法の説明に熱心に耳を傾け鑑賞していた。



## 司源流

自然を表現する生け花の為、インペリアルキャッスルの公園にある枝と現地の花を使って生けていただいた。来場者の生の声、感想をノートに書いて頂く場面もあった。来場者の手を取り生け花を丁寧に教えていただいた。



## 赤坂なでしこ会

おひな様や獅子など木目込み人形を展示していただいた。実演では4色の布を使った手まり製作を来場者に教えていただき、実演参加者は少しずつ教えてもらいながら一生懸命作っていた。「和」を感じさせる人形に来場者は写真を撮るなど興味深く鑑賞していた。



## NPO 法人 CAN 缶アート G

アルミ缶で作成した「富嶽三十六景」の素晴らしいミニ屏風を出展いただいた。富士山のアルミ缶アートを来場者自身で作るワークショップは大変な人気で、実演参加者はアルミ缶がこのような素晴らしいアート作品に生まれ変わることを体感していた。



## B-Bridge

漫画やコスプレ等の日本のポップカルチャーをハートの風船で飾ったブースで紹介していただいた。アニメのキャラクターの塗り絵や、手作りのキラキラリボンの作成などを実演していただき、メイドさんとの写真撮影コーナーもあり来場者を楽しませてくれた。



## 瀬尾学園総合カレッジ SEO

巻き寿司、いなり寿司、藤の花寿司の展示実演をしていただいた。レストラン特設ブースでの巻き寿司実演は通路が通れなくなるほどの人だかりとなった。試食はあっという間に終わるほど好評で、完成した寿司が展示された会場では写真を撮る来場者が大勢いた。





## 訪問交流プログラム

訪問交流プログラムの学校訪問については9団体、生涯学習施設訪問については5団体が参加し、各団体ともに心と心がふれあう交流を行った。



### 早稲田ちんどん研究会 風街宣伝社

学 校

日 時 10月21日(月) 9:50~11:40

学 校 名 Ogólnokształcąca Szkoła Baletowa im. O. Sławskiej-Lipczyńskiej(バレエ学校)

交流場所 バレエ練習ホール 交流対象 バレエ学校の全校生徒(10才~18才) 180名

早稲田ちんどん研究会が派手な衣装と楽器で生徒たちの前に登場すると、彼らは興奮を抑えることができない様子であった。パフォーマンスは低学年と高学年のグループに分かれて披露され、特に南京玉簾と盆踊りが大好評であった。盆踊りでは生徒たちも参加して楽しみ、バレエ学校の生徒だけに「炭鋤節」の踊り方はすぐに把握できたようであった。また、ポーランドの歌「森へ行きましょう」も紹介されて生徒たちは喜んだ。その後の生徒たちからの質問に、早稲田ちんどん研究会は丁寧に答えていただき、とても楽しい半日であった。

### 和太鼓 TOKARA

学 校

日 時 10月21日(月) 10:00~12:30

学 校 名 Szkoła Podstawowa nr 70 im. Mikołaja Kopernika w Poznaniu(小学校)

交流場所 小学校体育館

交流対象 小学校生徒(9才~12才) 150名×2回

和太鼓TOKARAが力強い演奏を始めると、生徒たちは演奏に夢中になりリズムをとりながら大はしゃぎとなった。そしてワークショップでも初めて触れる和太鼓に生徒たちは大喜びした。演奏とワークショップを2回繰り返していただいた。生徒たちにとって興奮さめやらぬ、とても貴重で楽しく感激の体験となり、この交流会は思い出深いものとなった。



### 太鼓衆 翔鼓

学 校

日 時 10月20日(日) 12:30~13:15

学 校 名 Ośrodek Wspomagania Dziecka i Rodziny w Kołaczewi(孤児院)

交流場所 インペリアルキャッスルシアター 交流対象 孤児院(7才~16才) 20人

孤児院の生徒は早めにインペリアルキャッスルに到着し展示会場を見学した。その後当日夜に本番公演を迎える太鼓衆 翔鼓のリハーサルを見学し、交流のためのパフォーマンスも喜んでいただいた。孤児院の生徒全員が舞台上に上がり、太鼓衆 翔鼓が音頭をとってワークショップを楽しんだ。ボランティアから「お互い遠い国同士の出身で、言葉も違うのに一緒に太鼓を叩いて音楽が互いの言葉になった」とのコメントをいただいた。思い出に残る交流のひとつであった。



## 日本画彩潮会

学 校

日 時 10月21日(月) 9:45~13:00

学 校 名 Liceum Plastyczne im. Piotra Potworowskiego (美術高校)

交流場所 学校内教室および美術作業室 交流対象 美術高校生徒 (17才~21才) 30名

彩潮会はまず美術高校の生徒たちと先生方の前で説明を交えて日本画の実演をした。生徒たちは熱心にその説明を聞きながら実演に見入り、彩潮会は多くの質問に対して丁寧に答えていた。ワークショップでは日本画のみならず、書道も生徒に楽しんでいただいた。生徒たちは日本画を中心に日本の伝統文化に触れることができ大変喜び、先生方も彩潮会に感謝の意を述べた。



## 長沼静きもの学院 熊谷校

学 校

日 時 10月21日(月) 10:15~11:50

学 校 名 XI Liceum Ogólnokształcące (高校)

交流場所 学校内講義室 (レクチャーホール)

交流対象 高校生徒 (16才~19才) 約100名

長沼静きもの学院 熊谷校は高校の生徒数名にモデルになっていただき、生徒たちの前で着付けのパフォーマンスをした。その美しい着付けパフォーマンスを生徒たちはとても喜んでいて。生徒たちの中には日本文化や日本語を学んでいる人も多く、その後の歓談時間では生徒からの様々な質問に対し、詳しく答えていた。とても和気あいあいとした交流会であった。



## SHUHALLY

学 校

日 時 10月22日(火) 10:00~11:20

学 校 名 Szkoła Podstawowa nr 70 im. Mikołaja Kopernika w Poznaniu (小学校)

交流場所 学校内カフェテリア 交流対象 小学校の生徒 (10才~12才) 16名×2回

SHUHALLY は始めに茶道の実演を披露した。お茶と和菓子を初めて手にした生徒たちは恐る恐る口にしたが、一口味わうと笑顔に変わった。その後生徒2人が代表でお茶をたて、見学している生徒たちも含めてワークショップを楽しんだ。生徒たちからは多くの質問があったが、ひとつひとつ詳しく答えていただいた。交流会はその後生徒が入れ替わり、もう一回実施された。生徒たちにとって、忘れられない思い出となった。



## B-Bridge

学 校

日 時 10月22日(火) 9:50~11:50

学 校 名 Społeczna Szkoła Podstawowa nr 1 oraz Społeczne Gimnazjum nr 1 (小・中学校)

交流場所 体育館およびバレエ教室

交流対象 9才 54名、および10才~11才 74名

B-Bridge は生徒たちに折り紙の実演をして、「鶴」「箱」「花」などさまざまなものを作った。そして生徒たちとワークショップを楽しんだ。生徒たちはB-Bridge にボランティアを通じていろいろなことを質問して会話も楽しんだ。先生も「今回のように、文化の違う者同士が話しをする機会があることはとてもいいことです」と交流プログラムを大変喜んでいただいた。



## 剣伎衆かむみ featuring 小林未郁

学 校

日 時 10月22日 (火) 9:30~12:00

学 校 名 Zespół Szkół Ogólnokształcących nr 2 z Oddziałami Dwujęzycznymi im. Charles de Gaulle'a (小・中・高併設校) 交流場所 学校内体育館

交流対象 小学校生徒 (小・中・高校生958名)

剣伎衆かむみ featuring 小林未郁のパフォーマンスが始まると、騒いでいた生徒たちは静かになり、真剣に見入っていた。その後ワークショップでは一転して生徒たちははしゃいで楽しみ、校長先生も侍パフォーマンスに挑戦し楽しんだ。パフォーマンス終了後、生徒たちは取り囲みサインのお願いをした。交流会はその後生徒が入れ替わり、もう一回実施された。後日ポズナン市職員のジャパンウィーク\*担当より「子供が交流会に参加したが、帰宅後興奮してその時の様子を語っていた」と話していた。



## 八尾音

学 校

日 時 10月24日 (木) 10:00~11:30

学 校 名 Poznańska Ogólnokształcąca Szkoła Muzyczna II stopnia im. M. Karłowicza w Poznaniu (音楽中学および高校)

交流場所 学校内コンサートホール

交流対象 バレエ学校の全校生徒 (14才~19才) のうち100名

八尾音が最初に伝統的な日本の歌を生徒たちの前で披露し、その後生徒たちはポーランドの曲を中心に歌った。「河内音頭」を歌う際には、その踊りを生徒たちに教えて互いに楽しんだ。そしてお互いの文化や伝統などのことを質問し、とても充実した交流の時間を過ごした。

## 川口塘紅書道グループ

生涯学習施設

日 時 10月19日 (土) 14:00~16:00

交流施設名 Wyższa Szkoła Nauk Humanistycznych i Dziennikarstwa (生涯学習施設)

交流場所 施設内の部屋 A309

交流対象 生涯学習講座受講者 約30人

書道家川口塘紅は、5~6人ずつに分かれて座った受講者に書道の説明をし、自ら実演を披露した。受講者の前にはお手本の漢字を用意し、それらを見て書くワークショップを楽しんだ。この書道体験は初めての体験であり、彼らにとってとても思い出に残る交流となった。



## 藤登会

生涯学習施設

日 時 10月19日 (土) 14:00~15:20

交流施設名 Wyższa Szkoła Nauk Humanistycznych i Dziennikarstwa (生涯学習施設)

交流場所 施設内の部屋 FITNESS

交流対象 生涯学習講座受講者 約20人

藤登会は伝統的な日本の曲に合わせて日舞を披露した。そして日舞の小道具の説明、着物着付け体験、着物を着た上での日舞のワークショップを行い、受講者は大変喜んだ。歓談時には日舞の質問について詳しく答えていただき、又、互いの伝統的なことを質問し答えたりと楽しい時間を過ごした。とても和やかな雰囲気での交流会であった。

## 花柳アカデミー

生涯学習施設

日 時 10月21日 (月) 13:30~16:30

交流施設名 Wyższa Szkoła Nauk Humanistycznych i Dziennikarstwa (生涯学習施設)

交流場所 施設内部屋 A202 交流対象 生涯学習講座受講者 約20人×2回

花柳アカデミーはポーランド語で自己紹介をし、受講者から「難しいポーランド語なのにすばらしい!」とお声と拍手があった。受講者は着物姿の日舞をととても興味深く見ていた。日舞の中の1曲はポーランドの曲で、大変喜んだ。日本語、日本文化や日本人の生活についての質問に答えたり、いっしょに写真を撮ったりして、とてもほほえみにあふれた交流会となった。交流会はその後受講者が入れ替わり、もう一回実施された。



## 和紙ちぎり絵 鈴美会

生涯学習施設

日 時 10月21日 (月) 16:00~18:00

交流施設名 Wyższa Szkoła Nauk Humanistycznych i Dziennikarstwa (生涯学習施設)

交流場所 施設内部屋 A313

交流対象 生涯学習講座受講者 約20人

鈴美会の代表が和紙ちぎり絵について説明し実演をした。その後ワークショップとして受講者は3つの美しい短冊から1つ選び、手ほどきを受けながら自分たちでその短冊の和紙ちぎり絵を作成した。この交流会に参加した受講者より「貴重な体験をさせていただいた」「再度やってみたい」「この交流会は本当に楽しかった」とのお声をいただいた。



## TORANOKO Performing Arts Company

生涯学習施設

日 時 10月21日 (月) 16:00~16:45

交流施設名 Wyższa Szkoła Nauk Humanistycznych i Dziennikarstwa (生涯学習施設)

交流場所 施設内の部屋 Auli Artis 交流対象 生涯学習講座受講者 約50人

TORANOKO Performing Arts Companyは、舞台上で予定しているパフォーマンスの一部を30分披露した。歌、踊りの可愛らしい子供達のパフォーマンスを受講者にはこやかに鑑賞していた。その後グループ代表の方から偉大な作曲家ショパンや、ご自身が書かれた本についての話をいただいた。最後に受講者に折り紙の簡単なワークショップを行い、とてもほほえましい交流会であった。



# 西日本友好親善訪問団 交流プログラム

## 日本語を勉強しているポズナの学生との訪問交流会とSLチャーター乗車

日 時 10月21日(月)・23日(水)・25日(金) 場 所 各ホテル→ポズナン訪問交流会→SLチャーター乗車

ポズナンに到着した翌日は、ジャパンウィーク®の目的のひとつでもある国際親善交流の機会として、「アダム・ミツケヴィッチ大学」「ポズナン外国語大学」の日本語学科の学生との訪問交流会を開催した。訪問交流会は現地の学生の主導で進められ、自作のポーランドやポズナンを紹介した映像の上映をはじめ、「こぶとり爺さん」の日本語劇や落語の「小噺（こばなし）」を行ったりと様々なアトラクションを披露した。完成度の高い内容とおもてなし精神は、日本からの参加者たちに驚きと感動を与えた。アトラクション終了後は、質問タイムとなり、日本とポーランドの違いや、アニメや漫画といったサブカルチャーなどの話題も出て、あっという間の1時間30分が過ぎ去った。最後は参加各団体の代表がポズナンの学生にお土産を手渡し、訪問交流会は終了した。昼食終了後はポズナン本駅へ移動し、通勤客の足として未だに現役運行しているSL 蒸気機関車（貸切）に乗車。参加者は窓から見えるポーランドの緑豊かな景色と、SL 独特の力強い振動や時折聞こえる汽笛の音に旅情を感じながら、ポズナン本駅からグロディスク・ヴィエルコポルスキ駅までの約1時間20分の列車の旅を楽しんだ。



## ポズナンナイト

日 時 10月21日(月)・23日(水)

場 所 IBB アンデルシアホテル

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、ポズナン市内の「IBB アンデルシアホテル」

にて夕食会「ポズナンナイト」を開催。日本側は21日が丸尾和明氏／株式会社日本旅行代表取締役社長、23日が菊地憲一氏／株式会社日本旅行常務取締役兼執行役員西日本営業本部長、ポーランド側は21日がカタジーナ・パリセック氏／ポズナン市副部長、23日がヤクブ・ビンドウッフ氏／ポズナン市コンベンションビューローのご挨拶でポズナンナイトが開始。参加者の皆様にポー

ランド郷土料理をご堪能いただく一方、食事の合間にはワルシャワ・ショパン音楽大学の学生によるピアノ・バイオリンのコンサートをはじめ、ポーランドの民族衣装をまとった男女が現地の音楽に合わせてコミカルな民族舞踊を披露し、会場の雰囲気盛り上げた。そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地スイス・ベルンの案内とともに終了した。



# 現地参加団体



poznan.gazeta.pl

**POZNAŃ wydarzenia**

## Japończycy nauczą nas porządku. A my ich?

Jak z porzeczna herbaty zrobić sztukę, a z zakładania kimono widowisko? Japończycy to wiedzą i chętnie wam pokażą. W sobotę w Poznaniu startuje festiwal Japan Week. Wstęp na wszystkie wydarzenia - wolny

Marta Górna

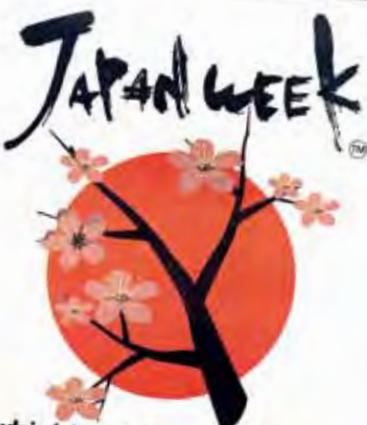


W sobotę w Poznaniu startuje festiwal Japan Week. Wstęp na wszystkie wydarzenia - wolny

Wszystkim wydaje się, że Japończycy to tytani pracy. A tymczasem my powiewamy barizem powiewi - mówi Gen Tsukamoto

Kolejna grzywna za Stołarską. Bo właściciele nie naprawiali

# JAPAN WEEK



Tydzień Japoński w Poznaniu 2013  
 ジャパンウィーク\*2013 ポズナン  
 19-24 października wstęp wolny  
 Miejsce: Centrum Kultury Zamek i Teatr Wielki

IFF POZNAŃ

24 października 2013 | www.glosnielopolski.pl | Polska Głos Wielkopolski

## Poznańskie korzenie

► Skradziona pamięć na koniecie festiwalu  
 ► Artystki walczyły spędzają... w Poznaniu

Mark Zaradziak

Słucha „Nolen Memory” („Skradziona pamięć”) Siostry Terazyany będzie finałowym akcentem kończącego się dziś w Poznaniu Japan Week. W Teatrze Wielkim zaprezentują ją młodzi artystki skupione w Turanoko Performing Art Company z miasta Matsuyama na wyspie Shikoku. To interesująca instytucja kulturalna kierują Yuria i Erika Matsuhita.

Yuria i Erika Matsuhita od dzieciństwa żyją w Poznaniu

Siostry zdecydowały się na pracę z dziećmi, gdyż interesowało je łowienie talentów. - Praca z dziećmi to niezwykłe fajna rzecz. My mamy swoje pomysły, a dzieci mają też swoje fantazje. Przecież często funkcjonują pomysły światem rzeczywistości i światem baśni - za-waża Yuria Matsuhita. - Dzięki temu możemy bawić się i grać. Chcemy pokazywać zarówno siłniczek najmłodszych, jak i ich problemy. A marzenia ludzie mają przecież zawsze. W dzieciństwie, w okresie dorastania, czy kiedyś już dorosli. Tego, kto zetknął się z Yurią i Eriką, intrzygać może ich piękna polszczyzna. Naprawdę, gdzie się nauczyły, odpowiadają: - Nasza matka jest Polką. I po-wiedziemy od razu, że pochodzi z Poznania. W dzieciństwie przyjeżdżaliśmy tu co roku na wakacje. Nasze ulubione

# ポーランドで和食紹介

砺波・瀬尾学園「ジャパンウィーク」参加

ポーランド・ポズナン市で開かれた「ジャパンウィーク」に参加し、大勢の観衆の前で調理実演する松本健佑君（右手前）と松井さん



## 太巻きやいなり調理実演

瀬尾学園総合カレッジS.E.O.（砺波市出町中央、瀬尾陸奥学園長の瀬尾和子校長と料理科受講生ら5人が、19・24日にポーランド・ポズナン市で開かれた「ジャパンウィーク2013」に参加し、調理の実演を通し和食文化を紹介した。現地訪問は北日本新聞社後援。

[Web上]写真3枚

ジャパンウィークは、日本の生活文化や芸術などの展示、実演を通して紹介する国際親善協会主催のイベント。欧米を中心に毎年開かれている。同カレッジの参加は2年連続5度目で、県内からは唯一の訪問だった。

瀬尾学校長と、料理科受講生の松本健佑君（高岡向陵高校2年）、松井香奈子さん、長田啓子さん、同カレッジピアノ講師の松本五久代さんが現地を訪れた。20日に約200人の来場者を前に、太巻きやいなり、藤の花を飾った太巻きを調理実演した。23日に帰国した。

和食が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録される見通しとなったタイミングでの訪問に、瀬尾学校長は「会場を埋め尽くすほどのにぎわいで、和食への関心の高さを感ずいた。今後も機会があれば参加し、日本の食文化の良さを伝えたい」と話した。

北日本新聞  
2013年10月26日付



## ポズナン市民からの感謝のメール

Dear Sirs,

I am a resident of Poznan. The city had the honor of hosting hundreds of Japanese people under the umbrella of your Foundation: Japan week.

The attractiveness of the meetings, exhibitions, films found its echo in the spontaneous participation of residents. We have assumed all the participants from the country of cherry blossom with great hospitality, understanding and interest. With great interest we listened and watched what you offered us.

A special thanks to all Japanese who were involved in organizing this week. And all the participants who gave their time and heart to promote Japan.

Thank you very much from the bottom of my heart.

Futatabi oaidekirunowo tanoshimini shiteimasu.

Best regards

Edwin Andrzejewski

私はポズナンの住民です。ポズナン市は光栄にも貴財団が主催するジャパンウィークによって多くの日本からの参加者をお迎えすることができました。

魅力ある劇場公演、展示、映画上映の反響によって住民は自然とこのイベントに足を運びました。桜の花咲き乱れる国からの参加者の皆様はおもてなしの心、理解と興味にあふれた方々であると我々と思います。我々も大変な興味を持って皆様が披露されたものを拝聴、拝見しました。

このジャパンウィークを組織していただいたすべての日本の方々と、日本のことを我々に進んで紹介するために時間と心をささげていただいたすべての参加者の皆様に深くお礼を申し上げます。

心より感謝申し上げます。

フタタビ オアイデキルノワ タノシミニシテイマス。

Edwin Andrzejewski



## 編集後記

今回のジャパンウィーク®開催にあたり、ポズナン市側関係者並びに実行委員会の熱心な受入の協力に感謝申し上げます。又ジャパンウィーク®運営を支えていただいた、在ポーランド日本国大使館の皆様方に厚く御礼申し上げます。

わけでも昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィーク®の主旨にご賛同いただき、お忙しい

中にも関わらずお手伝いいただいたボランティアの皆様方、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々のご協力なくして無事終了する事は出来ませんでした。ここに深く感謝申し上げます。

今後も真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて、世界が心一つになれることにジャパンウィーク®を通じて貢献できれば幸いです。

皆様方のご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げる次第です。



助 成



公益財団法人 双日国際交流財団

主 催



公益財団法人 国際親善協会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-4 鴨原ビル 3 階

TEL: 03-5802-0351 FAX: 03-5802-0353

E-mail info@iffjapan.or.jp

URL <http://www.iffjapan.or.jp>